

# ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

大阪大学

前期日程

科目

地 理

総 括

| 難易度(昨年比) | 難化 | 昨年並 | 易化 |
|----------|----|-----|----|
| 分 量(昨年比) | 増加 | 昨年並 | 減少 |

## 〈総 論〉

大阪大学では特定地域を中心とする地誌分野の比重が高い傾向がみられ、本年は東アジア地域を素材に自然環境や人口、海外投資など多分野から出題された。字数は50字から150字まで幅広く、合計は900字で例年と同様であったが、小問数は増加しており、処理すべき問題量は多くなったといえる。

## 〈特記事項・トピックス〉

本年は地図・統計資料の推移を読み取らせる設問が目立ち、グラフや地図の変化から産業や人々の生活の変容を考察する問題などが出題された。2023年以来となる地形図の出題もみられた。大問(Ⅱ)では、日本の時代的变化が多く問われており、日本地理分野の学習の重要性が改めて示された。また、字数指定の制限が厳しい問題が多く、少ない字数で的確に表現する力も求められた。

## 〈合格への学習対策〉

まず、基礎的な学力を十分に身につけることが重要である。さらに、さまざまな分野の重要事項について100～200字程度で要点をまとめる練習が必要となる。論述の書き方を習得するためには、過去問の中でも比較的易しい問題から取り組むと効果的である。特に、現代的課題や国際的動向への対応を怠らないことが求められる。また、作成した答案を地理の先生に添削してもらうことで、より確実な学力向上が期待できる。長文の論述対策には相応の時間がかかるため、共通テスト対策と並行しつつ、早期から論述の練習を開始することが望ましい。

## 設問ごとの分析

| 問題番号 | 出題形式     | 分野・テーマ(表題)     | 特徴(内容分析・解答上のポイント)                                                                                                                | 問題レベル |
|------|----------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| (Ⅰ)  | 論述<br>選択 | 東アジアとその周辺地域の地誌 | アジアの内陸地域における乾燥地の成因と気候的特徴<br>黄砂の飛散拡大と人間活動<br>黄砂が3～5月に集中する理由<br>日本・韓国・中国の合計特殊出生率と人口問題<br>日本の対中投資と産業立地の変化                           | やや難   |
| (Ⅱ)  | 論述       | 日本・諸外国の地域変化    | 地形図の読図(住宅地の立地)<br>新興住宅地における人口構成上の課題<br>1930年に北海道・福岡県で所得水準が高かった背景<br>高度成長期以降の一人当たり所得と製造業の立地変化<br>東京一極集中進行の原因<br>メキシコ国内の地域間経済格差と背景 | やや難   |

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。